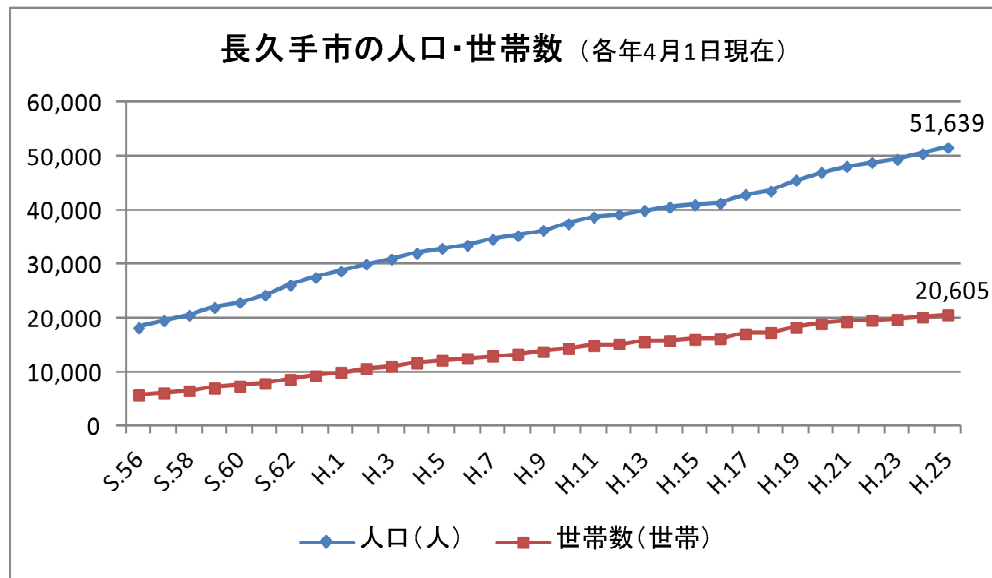


1 現状

(1) 長久手市の概況

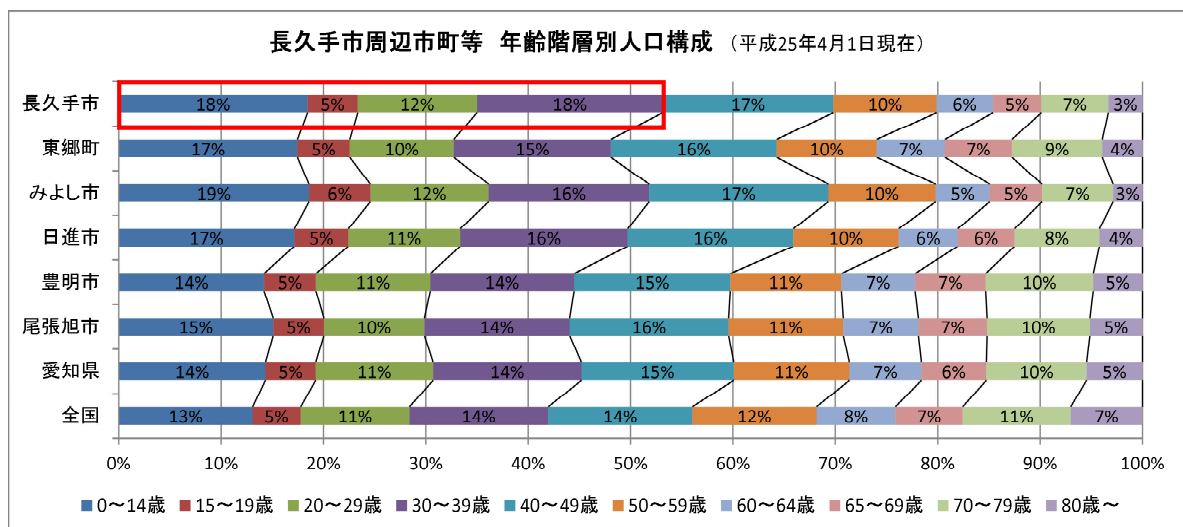
本市の人口、世帯数はともに増加を続けており、平成25年4月1日現在で人口51,639人、世帯数20,605世帯となっています。



(資料：住民基本台帳)

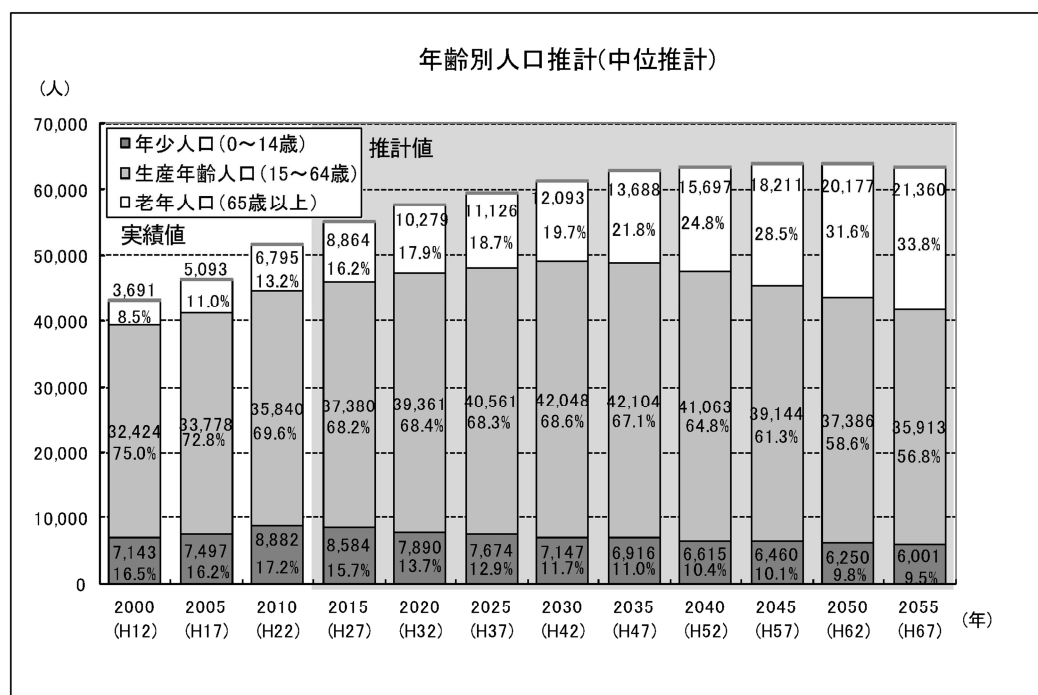
平成25年4月1日現在における年齢階層別の人口構成を周辺市町や愛知県、全国と比較すると、本市では比較的若い世代の割合が高くなっています。

また、平成22年国勢調査における平均年齢は37.7歳であり、全国1728市町村で最も低くなっています。



(資料：住民基本台帳)

現在は若い世代の割合が高いものの、年齢3区分の人口割合の見通しをみると、将来的には65歳以上の老年人口の増加が顕著であり、高齢化率が著しく増加するものと見込まれています。



(資料：長久手市将来人口推計（平成24年度改訂版）)

(2) 市民意識調査からみた現状

平成24年9月に市民5,000人を対象とした市民意識調査を実施し、約2,650人からの回答がありました(回収率53%)。その中で、生涯学習に関する設問に対し、主に以下のような結果が得られました。

➤ 生涯学習の取組みの有無

- 現在、生涯学習に取り組んでいる人は、約33%と少ない。
- 男女ともに、取り組み割合は65～69歳が高く、20～50歳代が低い。

➤ 生涯学習に取り組んでいる人の取り組み状況

- 現在、生涯学習に取り組んでいる人の学習内容は、「水泳、テニス、剣道などのスポーツやヨガ、健康体操などに関するもの」が最も多い。
- 利用施設は、「市外の公共施設、民間施設、個人宅など」が約47%と最も多い。

市内では「公共施設(公民館、杵ヶ池体育館、文化の家や中央図書館など)」が約 30%と多く、次いで「市内の個人宅」が約 23%と多くなっている。

生涯学習に取り組む上で支障に感じていることは、時間がとりづらいなどの個人的理由を除くと、「利用できる市内の公共施設が少ない」が約 35%と多い。

➤ 生涯学習に取り組んでいない人のニーズ

- 現在、生涯学習に取り組んでいない人で、今後機会があれば学びたい内容は、「水泳、テニス、剣道などのスポーツやヨガ、健康体操などに関するもの」が最も多い。
- 20～40 歳代では、家庭生活、文化・芸術、国際交流などについての学習ニーズが高く、50～70 歳代では、地域づくり、農業体験などについての学習ニーズが高い。

➤ 生涯学習に関する制度の認知度

- 「ながくて・学び・アイ講座」の認知度は 15%、「人材バンクリスト」は 12%と低い。

ながくて・学び・アイ講座

教えること、学ぶことをそれぞれの立場で学び、学習機会の提供と講座をとおして市民相互の交流を図り、生涯学習の推進を図ることを目的とした市民主体の講座

長久手市生涯学習講師人材バンク

自分の知識・特技を地域の生涯学習活動に活かしたいという熱意のある方を講師として登録し、リスト化したもの

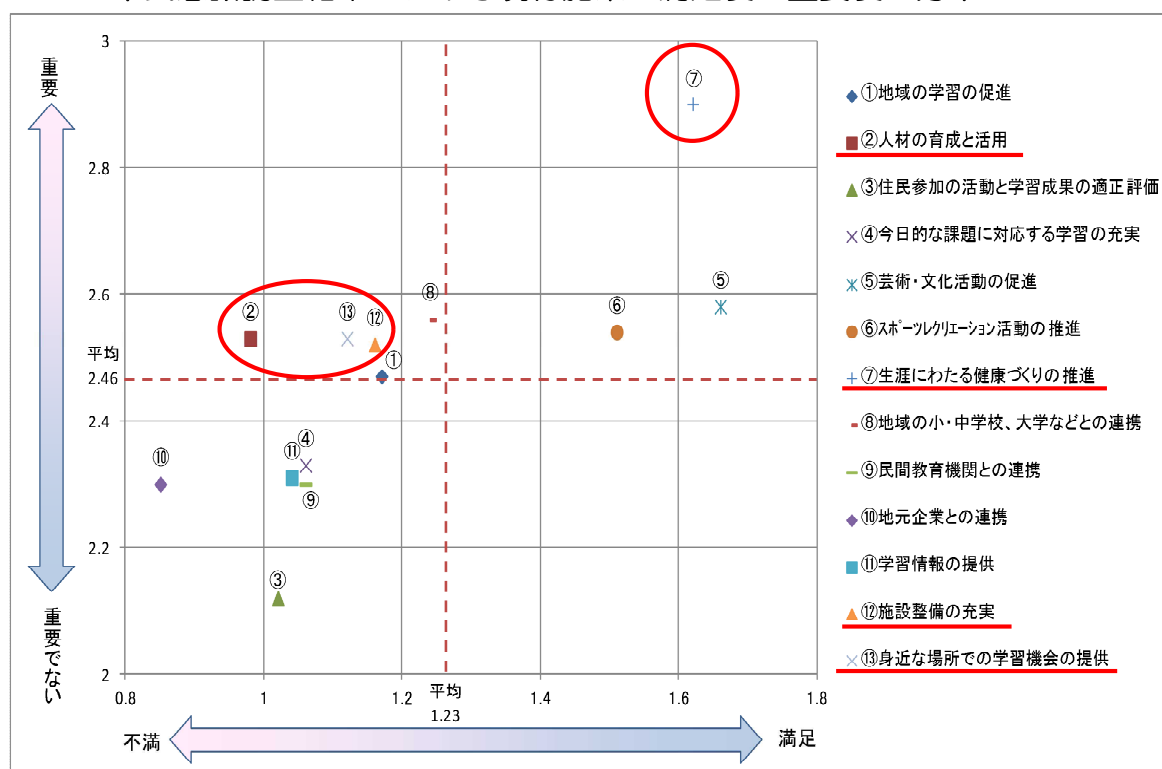
➤ 潜在的な講師としての人材

- 「すぐにでも講師として教えたい」「将来時間ができたら、講師として人に教えたい」と回答した人数が多い。

➤ 現行施策の評価

- 満足度が非常に高く、かつ重要度も非常に高い項目として、「生涯にわたる健康づくりの推進」が挙げられる。
- 満足度が低く、かつ重要度の高い項目として、「人材の育成と活用」、「身近な場所での学習機会の提供」及び「施設整備の充実」が挙げられる。

《市民意識調査結果における現行施策の満足度と重要度の分布》



(3) 生涯学習シンポジウム

基本構想の策定にあたり、生涯学習に関して市民の意見を生の声として聞くことを目的に、平成 25 年 4 月に生涯学習シンポジウムを実施しました。

日本福祉大学教授 平野隆之氏をコーディネーターとして迎え、「生涯学習の拠点としての施設のあり方」、「定年退職後の市民をどのように生涯学習へ導くか」という大きく 2 つのテーマについて、参加者の皆さんがグループに分かれて話し合いました。

当日は約 90 人の方が参加され、話し合いの中では、以下のような意見が出されました。



テーマ A:市内における生涯学習の拠点としての施設のあり方について

- 老人憩の家を高齢者だけではなく、一般にも開放してほしい。
- 自治会の建物や老人憩の家は利用できないか。
- 小学校区ごとなど、小エリアで多数の拠点があるといい。活動をいろんなところでできるといい。
- 小さな公民館が学校区に一つくらいあるとよい。
- 地域で自主管理する施設がたくさんある。市が利用状況等を把握して、有効に活用すべき。
- 行政がどんどん情報を集め、オープンにしていく必要がある。
- 集会所は自治会の管理。利用拡大のため行政がどのようにしていくか。
- 地域の保育園小中学校を空いている時に使用できると良い。地域で活用。
- 集会所の利用が週 2 回程度でもったいない。もっと活用できないか。



老人憩の家や集会所等、今ある施設を有効活用すべき

- 行政の管理が縦割りで、施設によって管理者が違う。それをどうやったらうまく使えるようになるか。一元管理することが必要。
- 市民が利用できる施設に関する情報共有が必要。一覧にしてほしい。
- 担当課ごとの管理ではなく、市全体で施設を共有できるといい。
- インターネットを活用して、市内の施設を一覧で表示し、利用予約や取消を行えるようになるといい。
- 行政でリストをつくる。一元管理、利用目的や利用方法、管理者情報等をデータベース化。
- 申込みの手続きの簡素化。
- 市内の全施設の情報を紙ベースで一覧化したものを作成する。
- 施設検索システムを導入し、全施設の空き情報を提供する。
- たとえば「施設利用課」を設置し、一元管理する。
- 施設利用の予約方法を見直す。



施設を利用しやすくするため、情報の共有や開示など一元管理が必要

テーマB：定年退職後の市民をどのように生涯学習へ導くかについて

- 習いたい人と教えたい人が両方いるが、その双方の情報をどうキャッチするか。もっと情報が得やすいようになるとよい。
- 人生の節目に、生涯学習の情報があるとよい。例えば、60歳になる人全員にスマイルを配布すれば、お金もかからない。

※スマイル：市が作成する生涯学習関係の情報誌

- 情報発信を徹底し、子どもと大人のマッチングが重要→交流の場を発信。
- 情報を得る所が無い。
- 口コミが一番輪を広げるのに役立つ。
- 定年になった時に、市内にどんなボランティア団体があるのか知らない。周知方法を検討してほしい。



もっと情報を得やすくすることが必要

- 65歳は、1歩がなかなか踏み出せない。
- 出会いの場所を設ける。
- ボランティアとして参加するための、きっかけ作りをする。
- 少人数で映画会として始めたサークルが、段々人が多くなってきた。
- 小さな輪から増やす方が良い。きっかけの場所が必要。
- 第1歩が大事だと思う。



まずは小さなきっかけづくりが重要



- 男性は、勤め先から地域に戻ってくるのが課題。
- いざ退職してみると、地域でのつながりが無いことに気が付く。普通のサラリーマンは地域に目が向いていない。
- 夫婦で参加することで、男性を連れ出す。
- 定年退職時に、該当者へ生涯学習関係の情報誌やボランティア団体リスト、シニアクラブなどまとめた情報を提供してはどうか。
- 退職後の男性は地域とのつながりが少ない場合が多いので、生涯学習へ導くためにはまずそのつながり作りを促進することが大切。



退職後世代に地域とのつながりを作る



2 現状からみた課題の整理

本市の概況、市民意識調査結果及び生涯学習シンポジウムにおける意見から、今後の生涯学習の推進及びそのための生涯学習環境の充実に向けた課題を整理します。

➤ 長久手市の概況からの課題

- 本市では、現在は若い世代の割合が高いものの、将来的には高齢化が確実に進むことから、今後増加する退職後世代が生涯学習に参加しやすくなるよう、機会の充実を図っていく必要があります。

➤ 市民意識調査結果からの課題

- 生涯学習に取り組んでいない市民の割合が多いことから、だれもが学習に取り組みやすくなるよう、学習の情報や場の提供を充実させていくことが必要です。
- 生涯学習に取り組む上で「利用できる市内の公共施設が少ない」と感じている人が多いことから、生涯学習に利用できる市内の公共施設の情報を提供するなど、既存施設の有効活用に関する検討が必要です。
- 年代によって、取り組みたい生涯学習の内容に差があることから、各年代が求めている学習を適切に提供することが必要です。特に「スポーツ・健康づくり」は、全ての年代や生涯学習の取り組み状況の有無に関係なく共通して関心が高かったことから、スポーツや健康づくりに関する学習の提供を充実させることが必要です。
- 講師として教えたいとする人が多い一方、「ながくて・学び・アイ講座」「人材バンクリスト」などの制度の認知度が低いことから、講師となり得る人材が十分に活躍できるよう、こうした既存制度の周知・PRを図っていくことが必要です。
- 前構想の施策の評価として、「人材の育成と活用」や「身近な場所での学習機会の提供」等について、満足度が低く重要度が高くなっていることから、これらに関連する施策について今後も継続し、充実させていくことが必要です。

➤ **生涯学習シンポジウムからの課題**

- 生涯学習の拠点としての施設のあり方については、「今ある施設を有効活用すべき」、「施設の利用に関する情報の一元管理が必要」といった意見が出ていることから、既存施設の有効利用に関する検討とあわせ、施設の利用に関する情報の一元管理についても検討することが必要です。
- 定年退職後の市民をどのように生涯学習へ導くかについては、「情報を得やすくする」、「きっかけづくりが重要」といった意見が出ていることから、定年退職後の市民に向けた情報提供の充実を図っていくなど、生涯学習に参加するきっかけづくりを支援していくことが重要です。

3 前構想の成果と今後の課題

平成 15 年 3 月に策定した長久手町生涯学習基本構想においては、以下の基本理念及び 5 つの基本目標に基づき、これまで各施策を展開してきました。前構想を振り返り、主な成果と今後の課題を整理します。

▼前構想における基本理念・基本目標

長久手町生涯学習基本構想

【基本理念】

地域で、世代を超えたふれあいのある生涯学習のまちを築く

【基本目標】

- 1 自主的な学習を支援する
- 2 学習の内容を充実する
- 3 学習機会を提供する
- 4 学習の情報提供を充実する
- 5 学習の場を充実する

1 自主的な学習を支援する

【成果】

- 発表会やフェスティバル等を実施することで、学習成果を発表する場の充実を図りました。
- 学習成果をつなげていく環境整備を推進しました。



【今後の課題】

- 市内に多く潜在する人材が活躍できるようなしくみをつくる必要があります。
- 地域交流活動やボランティア活動がより一層活発となるよう推進する必要があります。

2 学習の内容を充実する

【成果】

- 市民の積極的なスポーツやレクリエーションへの参加を促進するとともに、健康教育等の講座の実施を充実させることで、生涯にわたる健康づくりを推進しました。
- 芸術文化活動の自主的で主体的な展開を促進するため、鑑賞機会の充実や環境整備を推進しました。



【今後の課題】

- スポーツ・健康づくりへの意識の高まりに対応するため、学習内容をより一層拡充し、環境を整備する必要があります。
- 「文化の家」を拠点とし、芸術・文化活動がさらに活発となるような環境を整備する必要があります。

3 学習機会を提供する

【成果】

- 学習の機会を広げるため、教育資源である小・中学校や大学との連携を図りました。



【今後の課題】

- 企業と連携して学習機会を提供し、人材を活用していく必要があります。

4 学習の情報提供を充実する

【成果】

- 様々な分野の発行誌などを充実し、市民のニーズに応じた学習情報の収集・提供を進めました。



【今後の課題】

- 高度情報化へ対応するためのニューメディアの活用を進める必要があります。

※ニューメディア：テレビや新聞、ラジオなどの既存媒体にとらわれない新たな媒体。

例えば SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)など

- 情報を総合的・体系的に収集整理し、多様な媒体により情報が必要な市民に積極的に届ける必要があります。

5 学習の場を充実する

【成果】

- 小中学校施設を市民に開放し、身近な場所での学習の場を提供しました。
- 既存の施設の利便性を高めるための整備拡充を図りました。



【今後の課題】

- 身近な生涯学習活動施設として、小・中学校開放のニーズが高いことから、より一層推進する必要があります。
- 既存の施設の利便性をさらに高め、生涯学習活動の拠点として利用できるよう推進する必要があります。

4 関係部署ヒアリングによる今後の課題

生涯学習は、生涯学習課を中心に様々な部署により推進されています。こうした関係部署と常に連携を図りながら進めていく必要があることから、関係部署が抱える生涯学習に関する今後の課題を把握するため、ヒアリングを実施しました。

以下、ヒアリング結果による今後の課題を整理します。

➤ ヒアリング結果による今後の課題

- ボランティア・NPOなど地域の人材を発掘・育成
- 団体の自主的な活動の支援、団体間の交流促進、ネットワークづくり
- 市民が関わるしくみづくり
- まちづくりへの意識が高いリーダー（キーパーソン）を見つける・育てる・つなげる
- 知識・技術を持った市民やボランティアの人材バンクリストの作成
- 障がいがある人にもわかりやすい情報の提供
- 福祉に関する知識の普及・啓発のための学習の充実
- 地域の人の子育て支援に参加できるような仕組みづくり
- 農楽校の推進、農業の担い手となる人材育成、農に関する学習成果の地域への還元
- 団体の自主的な活動の支援
- 本市にしかない地域資源の活用と大学との連携
- 地域共生ステーションにおける生涯学習活動の推進

※地域共生ステーションについては P34 参照